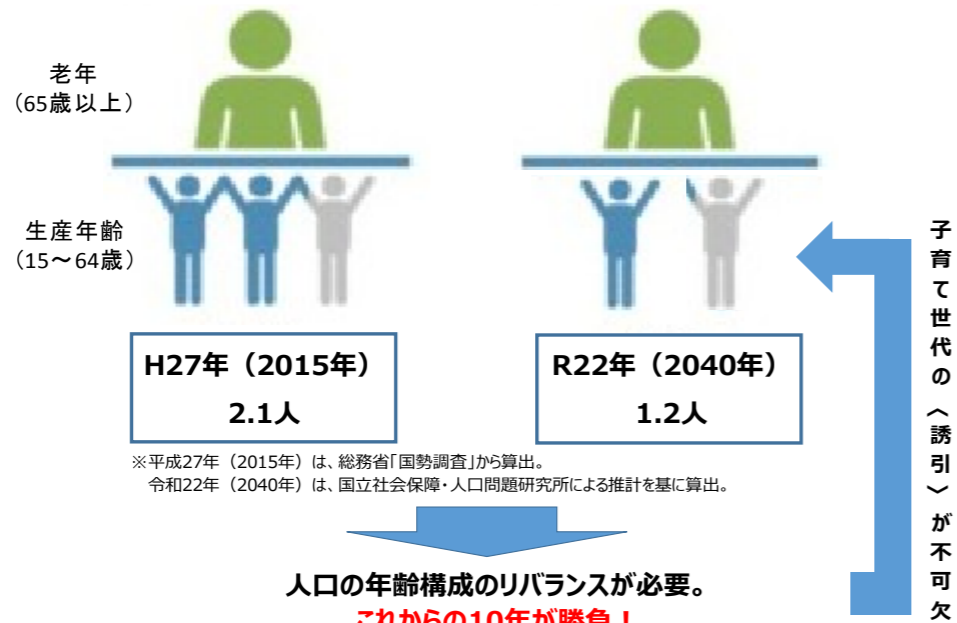


計画策定に当たって

老年人口（65歳以上）1人を生産年齢人口（15～64歳）が支える比率



※平成27年（2015年）は、総務省「国勢調査」から算出。
令和22年（2040年）は、国立社会保障・人口問題研究所による推計を基に算出。

人口の年齢構成のリバランスが必要。
これからの10年が勝負！

第六次総合計画

未来志向で今実施すべき政策を寝屋川水準で立案する
「成長戦略型の総合計画」

第1章 将来像

【将来像】

新たな価値を創り、選ばれるまち 寝屋川
～イノベーションの創出～

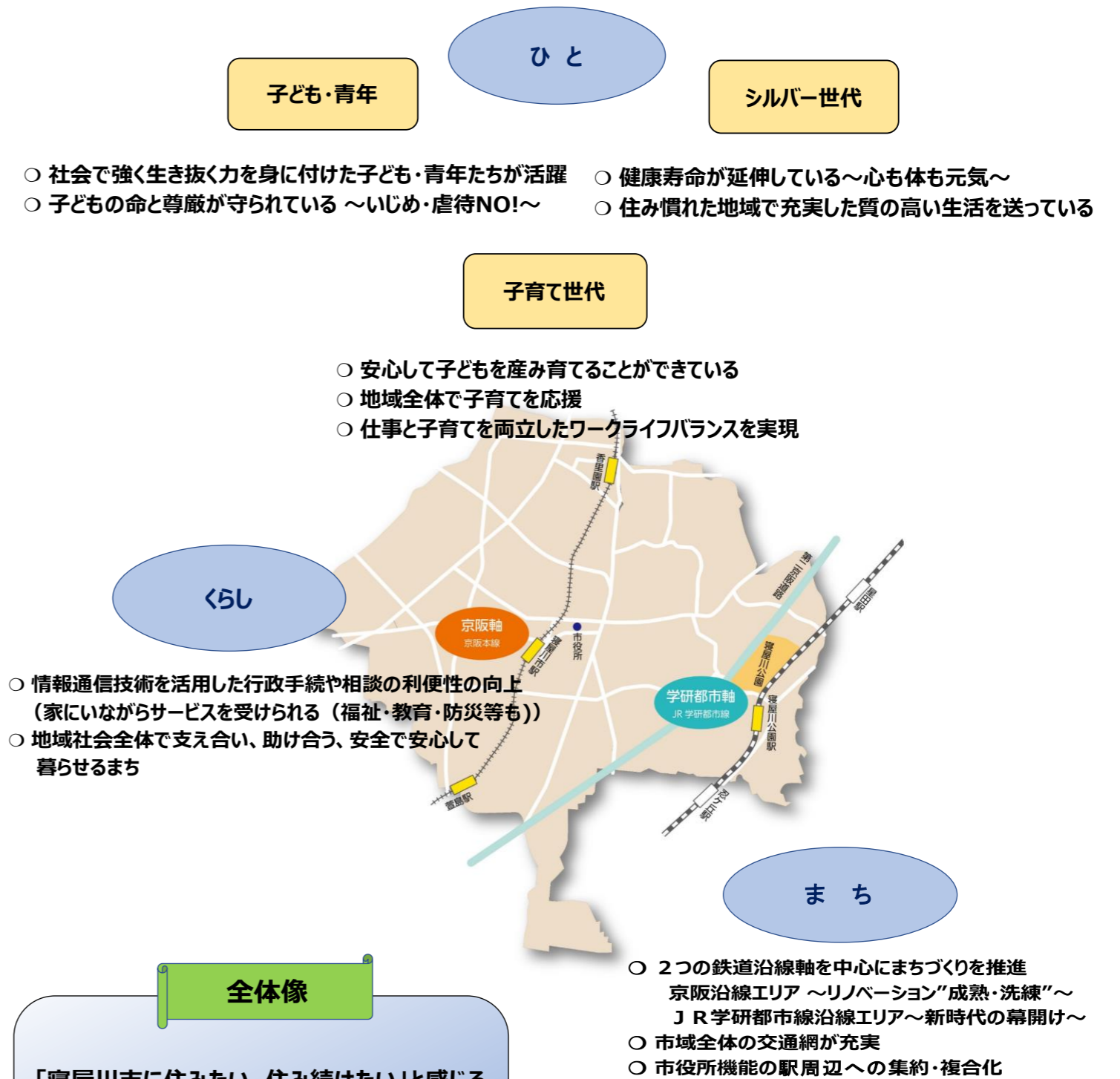
寝屋川市の新たな未来を切り拓くためには、新たな価値を自ら創り、現在の市民及び市外からの新住民となる将来市民に、選ばれ、選ばれ続ける必要があります。

そのためには、本市が有するさまざまな経営資源を最大限に活用し、柔軟な発想をもって積極果敢に挑戦することで、イノベーションを創出していかねばなりません。

市民の一人ひとりが未来に希望を持ち、寝屋川市に愛着と誇りをもって暮らし、働き、学ぶことを基本として、市内外の方に本市に住みたい、住み続けたいと感じていただける「選ばれるまちづくり」を進めます。

第2章 寝屋川市の未来の姿（グランドデザイン）

～ 概ね10年後の市の姿 ～



第3章 計画推進の基本姿勢

1 「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」へ

行政の使命である住民の福祉の増進を図ることを基本とした上で、子育て世代を誘引する施策・事業への経営資源の重点化（選択と集中）を加速することで、人口の年齢構成のリバランスを図り、税の涵養、働き手の確保など正のスパイラル（好循環）を生み出します。

2 ポテンシャルを最大限に活かし、更に伸ばす

ポテンシャルを総動員で活用し、それぞれを更に伸ばすことで、他にはないまちの魅力づくりを進めます。

【ポテンシャル例】

- ・京阪沿線、JR学研都市線沿線の2つの沿線軸と4つの鉄道駅が存在
- ・中核市58市中、市域面積が最も小さく（令和2年1月1日現在）、高い効率性・機動性
- ・子育て、教育環境の優位性（年間を通じて待機児童ゼロを達成、グローバルな体験ができる英語村の実施など） など

3 寝屋川水準の政策立案

市民ニーズを的確に把握し、独自性や独創性があり、物事の本質を捉えた「寝屋川水準」の政策を立案することにより、市民の生活をより豊かにするとともに、新住民を誘引する訴求力を高めます。

第4章 まちづくりの方向性

戦略的なまちづくり

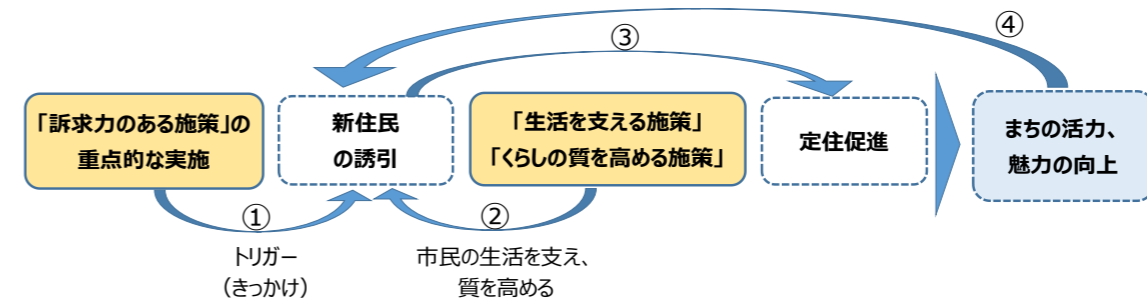
子育て世代を寝屋川市に誘引し、人口の年齢構成のリバランスを図ることに重点を置いた戦略的なまちづくりを進めるため、各施策を「訴求力のある施策」「生活を支える施策」「くらしの質を高める施策」に分類し、目指す目的を明確にした上で、メリハリの効いたまちづくりを推進します。

【施策の分類基準】

分類	内容
訴求力のある施策	市外からの新住民を誘引する訴求力が特に高いと見込まれる施策
生活を支える施策	施策の実施が無ければ、市民が通常の生活を維持することが困難となる生活の基盤を支える施策
くらしの質を高める施策	くらしに潤いを与え、質の向上が図られる施策

市外からの新住民を誘引する訴求力を生み出す「訴求力のある施策」への経営資源の重点化を強力に進めることで、選択と集中を加速します。

「訴求力のある施策」が新住民を誘引するためのトリガー（きっかけ）となり、「生活を支える施策」「くらしの質を高める施策」が新住民を含めた市民の生活を支え、質を高めることにより、定住を促進し、まちの活力・魅力が向上することにより、更なる新住民を誘引することにつながります。こうした好循環を生み出すことで、将来像の確実な実現を目指します。



より対外的訴求力の高い「寝屋川水準」の政策を立案するためには、市政運営において求められる「先を見る力」「寄り添う力」「発信する力」「稼ぐ力」の4つの力を最大限に働かせる必要があります。この4つの力を発揮し、高めることで、他の自治体にはない本市独自の魅力の向上を図り、近隣のみならず全国の多くの方から「選ばれるまち」を目指します。

「先を見る力」

現状の延長線で政策の在り方を考えるのではなく、市の将来の望ましい姿からの逆算で考える「フューチャー・ブル」型での政策立案を行い、新たな市の未来を切り拓く力

「寄り添う力」

市民の声をしっかりと聴き、ニーズを的確に捉え、徹底した市民ファーストの視点による質の高い行政サービスを提供する力

「発信する力」

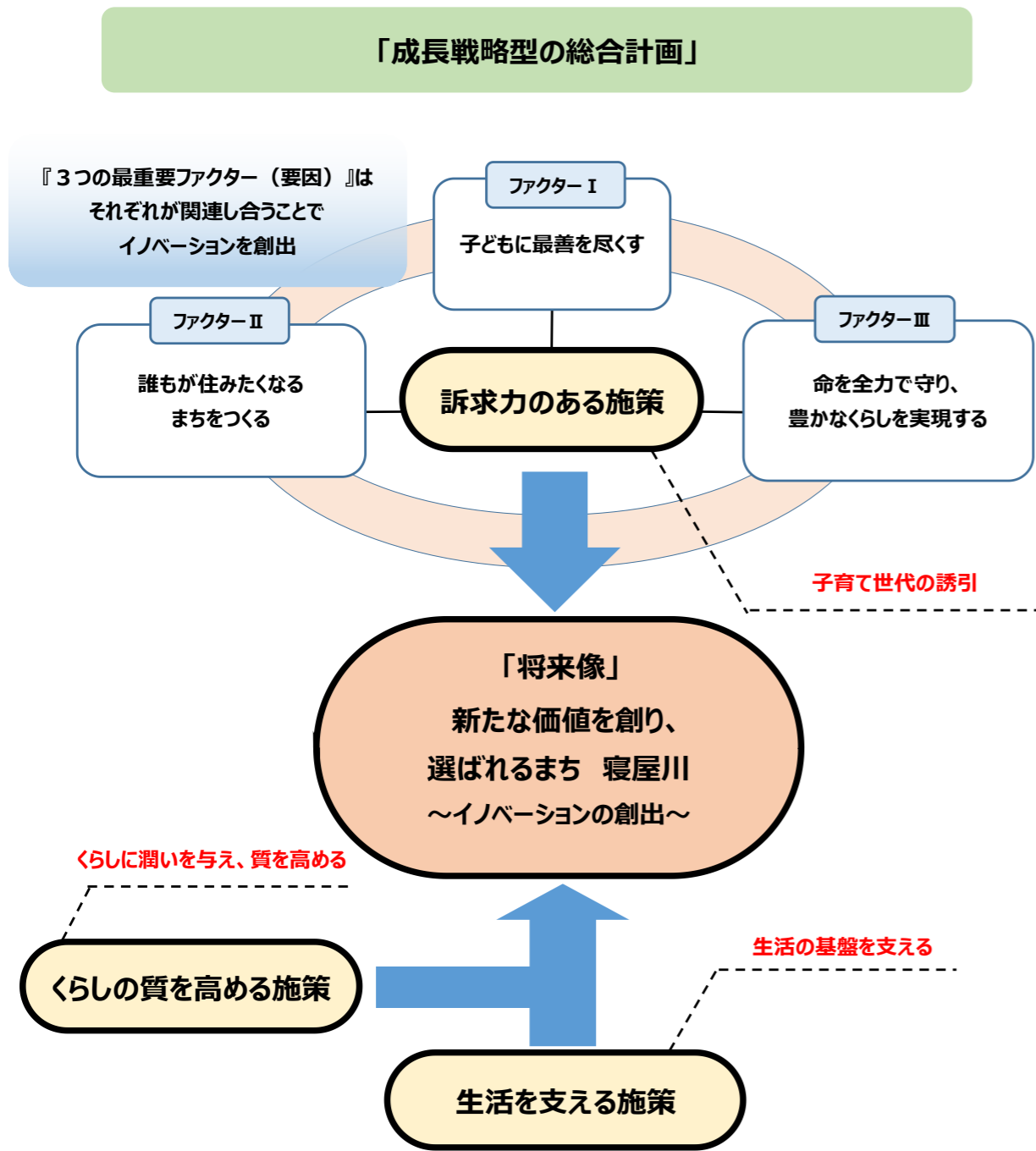
市の将来ビジョンや方向性について積極的に発信し、市内外の多くの方に本市に住みたい、住み続けたいまちであると理解していただく発信力

「稼ぐ力」

子育て世代の誘引などによって税源の涵養を図るとともに、本市が有するあらゆる経営資源やポテンシャルを最大限に活用し、独自財源の涵養を図る力

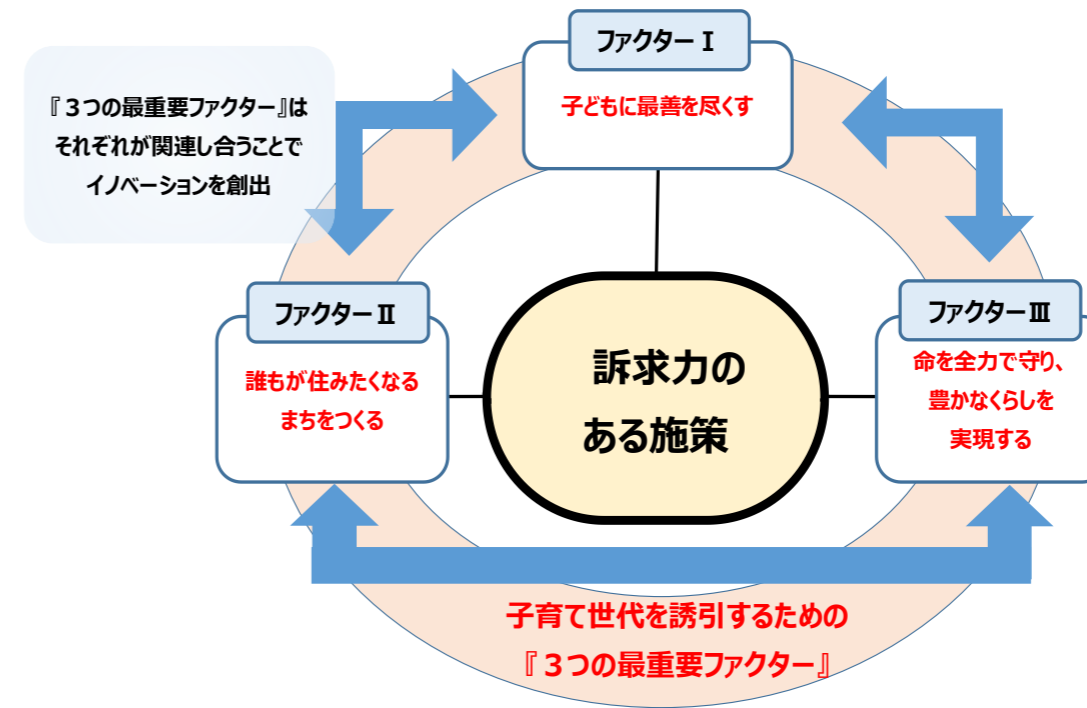
施策分類ごとの方向性

まちの将来像を実現するための「訴求力のある施策」「生活を支える施策」「くらしの質を高める施策」に係るまちづくりの方向性を示します。



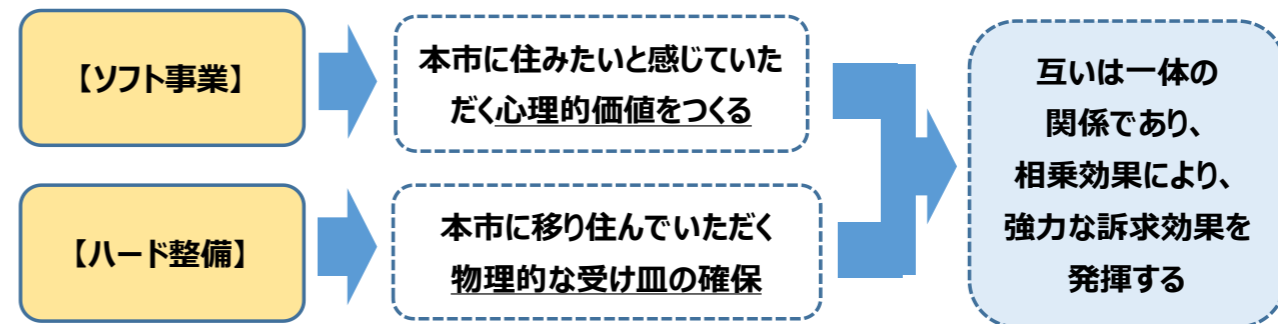
「訴求力のある施策」

子育て世代を寝屋川市に誘引し、人口の年齢構成のリバランスを図ることに全力を尽くします。
子育て世代の誘引に特に効果的であると見込まれるファクターを3つに絞り、この「3つの最重要ファクター」を基本とした施策展開を図ります。



「3つの最重要ファクター」は、相互に関連し合うことで、子育て世代への強力な訴求力を発揮します。

【ソフト事業】の実施により、本市に住みたい・住んでみたいという心理的価値を醸成し、【ハード整備】によって新住民が移り住む受け皿を用意する、その結果、強力な訴求力を生み出す、といった一体の関係であることを十分に意識し、効果的な施策の立案を進めます。



「訴求力のある施策」

【ファクターⅠ】子どもに最善を尽くす

(1) 安心して子どもを産み、育てる環境づくり

妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実を図ります。

寝屋川で子どもを産み、育てたいと感じていただける環境づくりを進めます。

(2) 寝屋川市だから学べる「寝屋川教育」

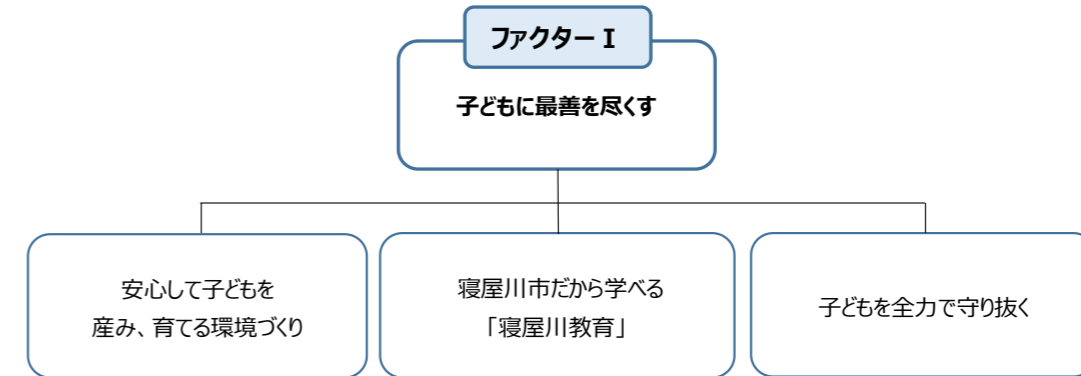
本市独自の「寝屋川教育」の推進により、子どもたちの「考える力」や「寝屋川方式の学習法」の定着などによる学力・体力の着実な向上を図るとともに、社会で強く生き抜くための力を育みます。

寝屋川市だから学ぶことができる特色ある「寝屋川教育」を推進します。

(3) 子どもを全力で守り抜く

寝屋川方式のいじめ対策を着実に実施し、いじめをしない、させない、許さない意識の醸成を図ります。

子どもの虐待から命と尊厳を守るとともに、子どもたちが安全・安心して過ごせる環境づくりなどを進めます。



【ファクターⅡ】誰もが住みたくするまちをつくる

(1) ポテンシャルをフル活用した都市基盤整備

京阪沿線、J R 学研都市線沿線の地域の強みを活かしたまちづくりを計画的に進めます。

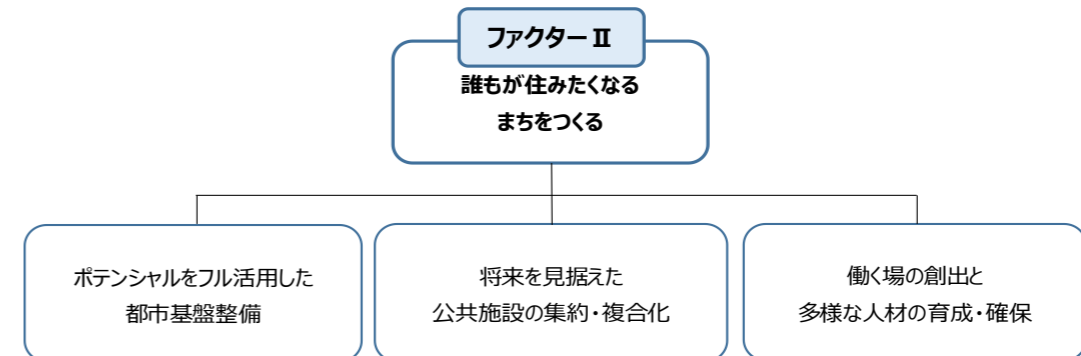
寝屋川公園駅周辺のポテンシャルを有効に活用し、新住民を誘引するための新たな都市ブランドの創出に取り組みます。

(2) 将来を見据えた公共施設の集約・複合化

ICTを活用したオンラインサービスなど行政サービスの高度化と併せ、市役所機能が分散した公共施設配置の見直しを進め、駅周辺を中心としたターミナル化機能を持った施設配置など、将来を見据えた公共施設の集約・複合化を推進します。

(3) 働く場の創出と多様な人材の育成・確保

雇用の創出と機会の増加を図り、定住人口の増加に資する雇用の受け皿を確保します。



【ファクターⅢ】命を全力で守り、豊かな暮らしを実現する

(1) 災害から命を守るための対策

地域防災力の向上を図るとともに、インフラ整備・強化や建築物の耐震化など災害に強いまちづくりを進めます。

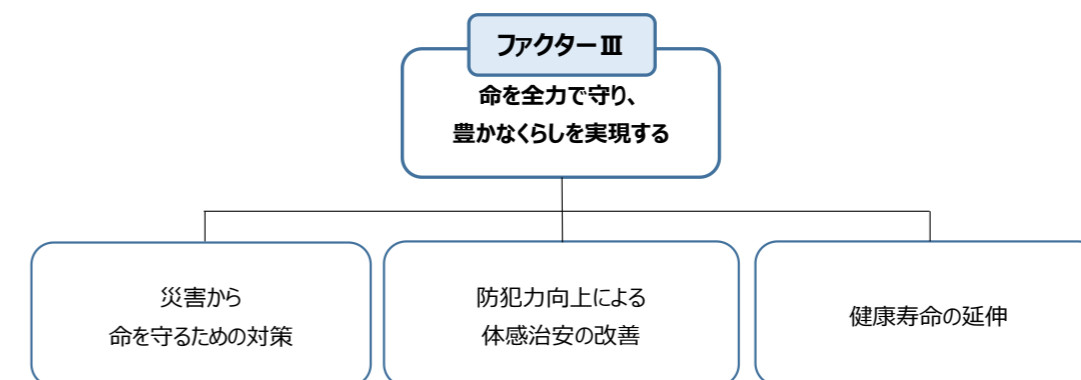
避難所における良好な生活環境を確保し、市民の命を守るための対策を推進します。

(2) 防犯力向上による体感治安の改善

地域が一体となって犯罪のないまちづくりを進めるとともに、犯罪が減少していることの積極的な情報発信などを通じ、市民の体感治安の改善を図ります。

(3) 健康寿命の延伸

市民の生涯にわたる健康づくりを支援するとともに、市民一人ひとりの健康意識の高揚、生活習慣の改善を図ることなどにより、生活習慣病の発症や重症化を予防するなど、健康寿命の延伸に向けた取組を進めます。



「生活を支える施策」

・高齢者や障害者を始め、援助を必要とする人が必要なときに適切な支援を受けられるよう、支援体制の充実を図ります。

・誰もが、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向けた取組を推進します。

「くらしの質を高める施策」

・文化・芸術やスポーツ、生涯学習などに親しむことができる環境づくりを進めます。

・自然環境と共生するまちづくりを推進します。

・地域コミュニティの活性化の推進、質の高い行政サービスの提供、効率的・効果的な行財政運営を推進します。